

|  |                 |
|--|-----------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 標準化自体が目的となつてはいけない。標準化の目的(=事業化・市場獲得)の深掘りが大事</li> <li>✓ 欧、米、中の標準戦略は、目的がしっかり垣間見える</li> <li>✓ 我が国にとっての標準戦略の目的は、市場形成・市場拡大だとみている</li> <li>✓ 国際標準化を産業政策の非常に重要なツールと位置づけ、官民学にその認識を強めるべき</li> <li>✓ 客観的な事業のKPIを定め、その執行組織の結果を、政策を担当する組織の要件に照らしてフィードバックするという、客観性・透明性を持たせることが必要</li> <li>✓ うまくいかなかった分析結果を「成果」とすべき</li> </ul> | <p>国家戦略の目的等</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 出来ている領域を伸ばす話とセットで、出来ていない領域をサポートするなど、分野に応じた話が必要</li> <li>✓ 事業化の過程に入ったときにリードできるよう、基礎研究の段階からのルールメイキングが重要</li> <li>✓ 競争力を確保するための標準化に加え、システムアーキテクチャやデータの標準化も重要</li> </ul>  | <p>領域</p>       |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 特にこの10年で顕在化してきたが、人材不足が決定的</li> <li>✓ 現状の標準人材は、例えるなら職人さんみたいな方が多い。個人もしくは特定の分野では優れた方が多いが、大きな枠組みの中で動いていないのではないか</li> <li>✓ 日本の方も国際標準の場に多くでているが情報収集にとどまっていたり、世界のソフトロー、世の中を動かすというところまでに対応できていなかったのではないか</li> </ul>  | <p>標準人材</p>     |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 標準化は市場を広げ、価値を拡大する方法論であることを、まず産業界の経営者等が認識を高めるべき</li> <li>✓ 企業として関心は薄い分野であっても、例えばカーボンニュートラルなど、実際には大きな影響を受ける可能性がある。実態を踏まえて啓蒙していく必要がある</li> </ul>   | <p>意識改革</p>     |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 体制の問題として、例えば国内の標準化団体がプラットフォームになり、ステークホルダーと連携するような舞台づくり、そういう機能が十分ではないのではないか</li> <li>✓ 一民間企業だけでは非常に難しく、国全体としてエコシステムを作っていく必要がある</li> </ul>  | <p>エコシステム</p>   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 現地で新しい価値を共創し、現地でコンテキスト化することが重要ではないか</li> <li>✓ 標準化は自ら動いて初めて価値最大化が図れるが、フォロワーになったら我々の力を発揮するところが限られる</li> <li>✓ 人間社会への貢献戦略・シナリオこそがパートナーを組む上での重要な要因となる</li> </ul>   | <p>パートナー</p>    |